

カンパチの省エネ養殖法の開発

水産土木工学部

研究の背景・目的

1. 価格の低迷、高齢化、後継者及び人手不足などで過重な労働となっている、ブリ、カンパチなどの養殖魚の管理の軽減を図る。
2. ハダムシの除去作業、網の掃除、網の取り替えなどの作業が軽減できる養殖システムを構築する。

研究成果

1. 養殖網を連結し、一方を空中、一方を水中に入れて、短期間に網を交互に干し、魚を移動させながら飼育する方法を開発した。
2. 生簀網は、生簀枠に設置した支柱とロープにより、少人数で持ち上げることが可能となり、生簀間をトンネル網で連結することで魚の移動も容易になった。
3. 網を干すことで、ハダムシ除去作業の間隔が延び、網掃除がほぼ不要の状況になった。

波及効果

高齢化、後継者及び人手不足の魚類養殖業における省人化、コスト削減に貢献する。



高知県大月町古満目にて実験中の連結生簀

(漁場施設研究室・高木儀昌, 開発システム研究室・大村智宏)